

# 上伊那教育会

## 第23回授業研修会

平成30年1月20日（土） 上伊那教育会館

### ◇第1部 実践発表

「Zさんに学ぶ ～全体・個・担任の関わり方～」 X中学校 Y先生



Zさんは今年出会った生徒の一人です。自分の係や委員会の仕事をすることや、クラスで新しく始めることに対して後ろ向きで、人との関わりはぶっきらぼう。すぐに「嫌だ」と言いがちな姿から、私は彼女に「もっと前向きに色々なことにチャレンジして欲しい」として「自分の役割をこなせるようになって欲しい」という願いを持ちました。

クラスの子ども達を巻き込みながら①褒める、認める、見守る（担任の働きかけ）②Zさんが認められる場づくり（周りの生徒、クラスの働きかけ）という支援を行っ

ていこうと考えていましたが、夏休み明け頃から宿題が出ない、クラス合唱の歌練習に一人だけ参加しようとしなないなどの姿から、注意をすることが多くなりました。Zさんが全く目も合わせてくれず話ができない期間がありましたが、そのような状況を変えてくれたのはZさんの周りにはいる子ども達でした。クラス合唱の時に歌いやすくなるように、声を出しやすい雰囲気を作るように「友達の良いところ探し」の活動をしました。その中で見つけた「(Zちゃんって) 怖そうに見えるけど意外と優しいよね」という言葉に、自分自身がZさんの悪い部分しか見えていなかったことに気づかされました。またこれらの出来事の中で、Zさんは「やりたくないからやらない」のではなく、自分がやれていないことには気づいていて、人よりできないことも分かっている、自己肯定感が低いために何事にも後ろ向きになってしまうということにも気づきました。支援の方向を見直し、①指導のメリハリとフォロー（担任の働きかけ）②多くの人から見てもらう、安心して生活できる人間関係づくり（周りの生徒や全体からの働きかけ）③係や少人数での活動の中で「やらなければ」という立場を仕組むということに心がけるようにしていきました。クラスの変化の中でZさんにも変化があり、最初に願った姿が見られるようになりました。この1年を通して、一番変化があったのは私の「生徒の見方」だったように思います。自分の固定観念にとらわれずに、ありのままの姿を受け入れ、生徒一人一人に合った目標設定をしていくことの大切さを学びました。

## [グループ討議]



## [北原和俊先生のご指導]

### 【Y学級の実践に学ぶ】

#### ① 子どもをみる、知る、わかる

私たちは、授業であれ、生徒指導であれ児童生徒と向き合うとき、特に大事になるのが一人ひとりの子どもの本当の姿をいかに捉えることができるのかだと思います。Y先生のZ生に対する捉え直しにより、Y先生が変化しており、Z生も少しずつ良い方向へ歩み出しています。



#### ② 教える、指導する立場から、寄り添い同じ立場に立っての関わり・支援

私たちは、生徒の気になる部分を正していこうとする。もちろん大事ですが、そのこと以上に大事なことは、すぐに結果を求めるのではなく、その生徒のわずかな変化や成長を認め賞賛することです。そうすることで、生徒の自己肯定感を高められるようにしていくことが重要です。Z生の得意分野の内容の授業化、友との関わりが期待できるグループ活動の設定等からZ生の成長につながる授業改善の試みが見られます。

#### ③ 学級づくり

Z生一人では、変わっていくことは難しい。集団の中で生活している以上、その子を取り巻く子ども達との関わりの中で変わっていかれると思う。級友が自分をどう見ているのかは本人にとって重要な問題になる。

## ◇第2部 ご講演

### 「『Zさんに学ぶ』の発表を受けて」

福井大学大学院教授 松木健一先生



松木先生には、Y先生がZさんや自分自身を捉え直しながら重ねていった実践を「子どもの内側から看取るということが全てであり、それ以上のことはない」と価値づけていただきました。また、Sexual Minorityに関する研究や自己調整と相互調整に関わる事例を紹介していただき、Zさんの姿に関連づけてお話をお聴きすることができました。

さらに、Y先生の実践から、教師の支えのあり方として「現実の子どもを見つめていくこと」「語りと傾聴を深めること」「個別指導と全体指導の関係」について、具体的な例を示していただきながら教えていただき充実した時間となりました。

#### 研修会を終えて（参加者感想）

##### <Y先生の発表について>

- Zさんとの関わりの中で、決してあきらめずZさんの本当のあり方、本当の姿を見つめようとしているY先生の実践や努力、また自分自身のあり方さえも見つめ直そうとしている姿にとっても感動しました。
- 全体、個、担任の関わり方ということで、私自身も悩んでいるテーマでしたので参加させていただきました。実践を聞かせていただき一貫してぶれない指導の大切さを改めて感じました。また、深い所の部分、その子の思いをみとりどう支援していくのかとても考えさせられ勉強になりました。
- Zさんとの関わり、先生の見取り、他の先生からの見取り、いろいろな連携をはかって今の状況をつくることができると感じました。私も初めての学級担任をさせてもらっていますが、生徒の見方、学級の見方、関わり方等、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 自分の固定観念やこうなってほしいという理想を子どもにあてはめて関わるのではなく本当の子どもの姿を見つめることの大切さや難しさについて改めて考え直す機会となりました。Y先生のエネルギー素晴らしいです。私も負けずに頑張りたいと思いました。
- Y先生がZさんに寄り添い、丁寧に接していることがひしひしと伝わってきました。Zさんを見ていくことを通して、学級全体もよい雰囲気になり、Zさんと友達との関係性も広がってきていて、先生の声かけやご指導のたまものだと思います。

#### <グループ討議について>

- グループ討議では、話しやすい雰囲気の中で同世代の先生や年配の先生からアドバイスになるお話をたくさんいただきとてもありがたかったです。できることから取り組んでいけたらと思います。
- 本音のレポート発表に対して自分とは違った感想が出され参考になりました。また、自身の学級学校での実践を気軽に語り合えてグループ討議の時間があっという間に感じられました。

#### <北原先生のご指導について>

- 北原先生のご指導は、Y先生の実践から大切なことがらを取り出して話していただき、すっきりとされていてとても勉強になりました。
- 北原先生の熱い語りで、現場で最も大切なことをポイントを押さえて示してくださいました。明確なので具体的にやる気が出てきます。感謝です。
- 北原和俊先生のご指導から、私たち教師は無意識にその子の問題点だけを見て、それを何とかしようと懸命になって引っ張ってしまう部分があります。唐木順三先生の言葉を心に留め、共に学び成長する気持ちを大切にしようと思いました。
- 北原先生のご指導をお聞きして、「子どもをありのままにとらえ、子ども達の内からの育ちを信じる」この言葉を改めて振り返ることができました。先生の中に一貫してこの言葉が流れていると思いました。ぜひこの気持ちを学校にもどって伝えたいと思います。

#### <松木先生の講演について>

- Zさんの特性について専門的な見地から述べていただき納得できました。「ほめる」ということについて自分自身課題がありますが、「悪いところが目につく時は理想の姿と比較してみている」という言葉が心に残りました。現実の子どもを見つめる、傾聴する、受けとめる、個と全体指導のこつ、決して見捨てない等々、教師のあり方を具体的に教示していただき、新たに前向きに進みたいと思いました。
- Zさんはどう育ってきたのかなとも考えてみましたが、今のありのままのZさんを受け入れ、よりよい方向に導いていくために「教師の支え」ということを具体的に松木先生に教えていただけて今日は得したなと思いました。Y先生の実践について、北原先生とはまた別の角度からの専門的に説明して下さりとてもよくわかりました。
- 他者期待と自己希望の不一致から起きる様々な反応から、普段の自分の子どもへの期待について考えさせられました。過度な期待は、子どもの可能性をつぶしてしまうことにもつながるのだと怖くも感じました。子どものありのままの姿を捉えていくことは大変ですが、子ども達自身のめあてやなりたい姿から子どもを捉えていけたらと思います。
- 「不安障害」という言葉を初めて知りました。不安なことがあると他の何かにかたわりを持つ。自分のクラスにも強いこだわりのある子がいるので、「こういうこだわりがあるんだ」で終わるのではなく、「何かあるのではないか」「不安を抱えているのではないか」という目で見ること、話を聞くことを大切にしていきたと思いました。

